

平成 27 年度 決算 の 状 況

我が国の経済は、中国をはじめとする新興国経済の景気減速の影響などにより、輸出が弱含み、個人消費や民間設備投資の回復に遅れがみられたものの、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とするアベノミクスの推進によって、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続きました。

国は、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、地域の特性に即して地域課題を解決する視点のもと、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をとりまとめ、地方公共団体に対し「地方版総合戦略」の策定及び先行的取組を支援するため地方創生交付金を創設し、地方創生に向け取り組んでいるところです。

小松市においては、10年ビジョンのまちづくりのコンセプト「おもしろい」「たくましい」「こちよい」に「はつらつ」を加え、まちづくりの方向性とまちの新しい形をイメージした「Next10年ビジョン」、人口減少社会の課題克服のまちづくり戦略である「こまつ創生総合戦略」を策定し、「共創」と「ひとづくり」を原動力に政策と予算をリンクさせ取り組んできました。北陸新幹線金沢開業や木場潟公園を主会場として開催された第66回全国植樹祭など大きな節目を追い風に、まちのブランド力向上をめざして、こまつ創生総合戦略を具現化する新しい高等教育機関として平成30年4月開学予定の(仮称)公立小松大学設立に向けた準備、JR小松駅周辺が学びのエリアとして、まちのブランド力を一層高め、賑わいを創出する拠点となる(仮称)小松駅南ブロック複合施設の建設着手に向けた取り組み、また、新たなライフスタイルへの変革をめざして、子育て支援のさらなるレベルアップを図る子ども医療費や保育料第3子以降の無料化、防災行政無線の整備、小中学校体育館天井や体育施設の耐震化を図る

など、安全・安心のまちづくりを高めてまいりました。

歳入歳出性質別決算の対前年度比を見ると、歳入では、景気の回復基調を受けた給与所得増により個人市民税が増収となるものの、法人市民税は中国経済の景気減速等の影響で減収となり市税全体として2.1%（約3.4億円）の減収となりました。財源調整機能として交付される実質交付税についても、4.9%（約8.2億円）の減収となりましたが、消費税増税に伴う地方消費税交付金の増収（約9.2億円）もあり、全体で0.6%（約2.3億円）の減となりました。

歳出では、人件費については、人事院勧告により2年連続で月例給・ボーナスともに引き上げられたものの、退職者数減による退職手当の減により、人件費の総額では7.7%（約4.6億円）の減額となりました。公債費については、繰上償還の減少により2.4%（約1.6億円）の減額となりました。繰出金については、国民健康保険をはじめとする社会保険関係特別会計への繰出しが増加し6.9%（約2.7億円）の増額となりましたが、国・県補助金の有効活用や効率的な予算執行、固定費の削減などに努め、全体で1.1%（約4.6億円）の減となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

1. 一般会計

予算額43,156,427千円の内1,066,066千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入42,142,987千円、歳出41,311,686千円で、繰越財源237,494千円を除いた実質収支額は593,807千円の黒字決算となり、その内300,000千円を基金へ積立て、実質繰越額は293,807千円となりました。

2. 特別会計

(1) 国民健康保険事業

予算額 12,843,387 千円に対し、決算額は、歳入 12,958,212 千円、歳出 12,652,716 千円で、実質収支額は 305,496 千円の黒字決算となり、その内 153,000 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 152,496 千円となりました。

(2) 簡易水道事業

予算額 40,300 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 37,493 千円となりました。

(3) 農業集落排水事業

予算額 572,600 千円の内 61,200 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも 504,467 千円となりました。

(4) 介護保険事業

予算額 9,530,378 千円に対し、決算額は、歳入 9,521,144 千円、歳出 9,430,464 千円で、実質収支額は 90,680 千円の黒字決算となり、その内 38,510 千円を基金へ積立て、実質繰越額は 52,170 千円となりました。

(5) 公債管理

予算額 8,288,200 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 8,282,138 千円となりました。

(6) 工業団地造成事業

予算額 126,700 千円の内 45,800 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも 80,548 千円となりました。

(7) 後期高齢者医療

予算額 1,241,552 千円に対し、決算額は、歳入 1,224,622 千円、歳出 1,220,868 千円で、実質収支額は 3,754 千円の黒字決算となりました。